



兵庫県出身、大学在学中に妻あけ
るさんと出会い、千葉で4年半暮らし
た後、南阿蘇村に移住して9年。
現在、妻、子ども6人(14歳、11歳、
9歳、6歳、5歳、2歳)の8人暮らし。



★写真提供／足立 豪範

自然と水、この環境を繋いでくれた
先代に感謝しています

熊本地震の時は、余震の中でも畑を耕し、種
を蒔き、山菜を採り、庭で火を起こし、ご飯を
炊くという「近所の方々の生きる力に感動しま
した」と、あけるさん。

「農村を守り育んできた暮らしの知恵を学び、
つなげていきたい。人間だからこそ、自然のため
に未来のために出来ることがあると今は信じて
います。

いつか山を持ち、持続的に山を育み守る林業
をしていきたい。今まで突っ走ってきたので、今は
あるものに感謝しています」と豪範さん。どこま
でも大きい山の懐に今日も入つていく豪範さん
からは、自然との生きる力強さを感じます。



村人
図
鑑

2011年3月に起きた
東日本大震災直後に家族そろって南阿蘇村へ

千葉県にて、整体師として働きながら大工や農業を学んでいた豪範さん。自ら自宅改装し整体院を開業した矢先に、東日本大震災に伴う原発事故が起き、『子どもの命を真ん中に』と、すべてを手放し家族で熊本への自主避難を決めます。人の営みにより命が壊れていく様を目の当たりにし、大きな悲しみに打ちひしがれていた足立さん夫婦。先の見えない避難生活の末に、南阿蘇村の水源を訪れます。すべての命に惜しみなく潤いと慈しみを与えてくれる水源に出会い、「この泉のように生きていきたい」と、南阿蘇村で暮らしていくこと二人の心は決まりました。程なく、家族研修として受け入れてもらえる農園主と出会い南阿蘇村に移住。農業研修に通いながら家を探していました2012年3月に植林のアルバイトに誘われます。阿蘇市の林業家 山部博典さんや、『NPOふるさと創生』の板東博暁さんとの出会いでした。

2012年9月農地付きの家が見つかり、暮らしお拠点に恵まれ、2013年5月、豪範さんは林業学校に入学しました。卒業後は同期の仲間たちと開業し、2年後には独立。「山を守ることは水源を守ること。水はすべての命の源」として、『阿蘇水守(あそみなかみ)林業』という名に志を込めます。

独立して仕事をするようになり5年

仕事は季節によって変わり、春は植林、夏は下草刈り、秋冬が伐採。自然の中が常に仕事場なので、冬の時期の伐採は寒さと危険な作業で厳しく、春の植林は危険な機械も使わず気候も暖かいのでもホッと緩みます。

千葉県にて、整体師として働きながら大工や農業を学んでいた豪範さん。自ら自宅改装し整体院を開業した矢先に、東日本大震災に伴う原発事故が起き、『子どもの命を真ん中に』と、すべてを手放し家族で熊本への自主避難を決めます。人の営みにより命が壊れていく様を目の当たりにし、大きな悲しみに打ちひしがれていた足立さん夫婦。先の見えない避難生活の末に、南阿蘇村の水源を訪れます。すべての命に惜しみなく潤いと慈しみを与えてくれる水源に出会い、「この泉のように生きていきたい」と、南阿蘇村で暮らしていくこと二人の心は決まりました。程なく、家族研修として受け入れてもらえる農園主と出会い南阿蘇村に移住。農業研修に通いながら家を探していました2012年3月に植林のアルバイトに誘われます。阿蘇市の林業家 山部博典さんや、『NPOふるさと創生』の板東博暁さんとの出会いでした。

2012年9月農地付きの家が見つかり、暮らしお拠点に恵まれ、2013年5月、豪範さんは林業学校に入学しました。卒業後は同期の仲間たちと開業し、2年後には独立。「山を守ることは水源を守ること。水はすべての命の源」として、『阿蘇水守(あそみなかみ)林業』という名に志を込めます。

親父の背中を見てきたんだと思った

「父が造園業をやっているので、緑に囲まれて育ちました。父は木を相手に仕事をしていますが今は自分も同じことをしています」。林業をやっていて大変なことは、力仕事と機械のトラブル。危ない仕事なので、準備や心の余裕がとても必要になり、風が強すぎて木を倒せない時もありました。「余裕を持たせることができて常に失敗から学んでいます」と仕事への想いを話します。

地域の人たちとの縁を子どもたちがつないでくれた

「七人の子どもを持つことが夢でした」と子どもたちに囲まれて嬉しそうに話す妻のあけるさん。「『子は宝』と地域全体で子を見守り育んでいこうという土壤と、地域の方々の子どもを慈しむ眼差しに感謝しています」という言葉から充実感溢れている様子が伝わります。東日本大震災を経て、南阿蘇村に移住してきた家族はたくさんいます。そこで出会った母たちはつながり、助け合いながら子育てをしてきました。「命・自然と共に生きる心、体を育てていきたい」。母たちの願いは阿蘇の自然の中で遊び、生きる知恵を学ぶ自主保育の場を生み、今につながっています。

「七世代先の未来を考えて今を大切に生きていきた。命にとって大切なと思うものを選び、自分に嘘をつかない心を鍛えてくれたのは、ホームスクーリングを経て、今は福岡で暮らしている高校生の長男でした」。